



進化を続ける 秋田に期待

〔秋田市観光クチコミ大使〕
株式会社交通建設
代表取締役社長

きく ち ただし
菊 地 正 氏

2019年6月に東日本旅客鉄道株式会社 執行役員秋田支社長を退任し、JR東日本パートナー会社である株式会社交通建設でお世話になっています。当社は、日本の大動脈と言われる鉄道の線路や構造物の建設・保守を行う会社です。首都圏と近郊のエリアを熟知した鉄道工事のスペシャリストたちが、誰もが快適に利用できる環境を整備するため、24時間体制で各線のメンテナンスをバックアップしています。

私は2016年から2019年までの3年間、秋田で勤務しておりました。北海道で生まれ、宮城県の大学で学び、東京で就職した私ですが、中学校の修学旅行で一度だけ秋田に来たことがありました。秋田への異動を告げられたとき、秋田に対し良い印象も悪い印象も浮かびませんでした。中学時代の印象のまま秋田に入り、閑散とした秋田駅前を見て「寂しさ」を感じたことを覚えています。数日後、修学旅行の思い出の地「寒風山」へ向かいました。そこからの眺めは昔と変わらないのですが、街の景色が大きく違っていました。この時、秋田での仕事を「鉄道の安全安定輸送を確保し、お客様に安心を提供すること」はもちろんのこと、地方創生として「秋田駅周辺の再開発」と「観光業の発展」に取り組むことに決めたのです。

秋田駅周辺の再開発の第一弾は、秋田駅とJR秋田西口駐車場のリニューアルでした。秋田杉などの県産材を使い、観光の方には秋田らしさを、地元の方には居心地の良い訪れたくなる場所の創出を目指し、駅、自由通路、待合ラウンジ等を統一したデザインとする木質化に取り組みました。第二弾は、秋田駅東口へのスポーツ・クリニックの誘致と体育館「秋田ノーザンゲートスクエア」の建設でした。また、第一建設工業株式会社の協力を得て誘致した県内初の食事付き学生マンション「ディークレスト秋田駅前」と合宿所「秋田ノーザンゲート トレーニン

グキャンプ」の整備により、若い世代の流入促進に取り組みました。第三弾は、秋田駅ビル「トピコ」のリニューアル、ホテルメトロポリタン秋田の別館増築、秋田駅西口広場の整備でした。私は、この第三弾まで着手して退任となり、今はその完成した姿を見ることを楽しみにしています。また、全系統の社員と挑んだ「秋田港クルーズ列車」は、クルーズ船で寄港した多くのお客さまに秋田港駅から「貨物線」を利用して秋田駅までご乗車いただくもので、秋田市中心市街地の賑わい創出にも貢献することができたと思います。

さて、秋田への地域貢献の思いは現在も続いています。交通建設は東京にある会社ですが、現在展開している企業広告の制作や媒体との調整は秋田にあるデザイン会社に発注しています。東京にある制作会社と何ら遜色なく、とても丁寧な仕事をしてれています。また、新型コロナウイルス感染拡大により、影響を受けた秋田の観光事業者の皆さんを応援したい私の思いに社員が賛同してくれたので、感染予防を万全に行い、秋田県内への社員旅行を10回(計約400名)実施しています。社員からは毎回好評で、大変嬉しく思っています。

秋田を離れて約1年半が経過しましたが、現在の経済情勢を乗り越えるためにも、今後も微力ながら秋田の魅力を伝えることに尽力して参りたいと考えています。

■略歴

- 1958年 北海道生まれ
- 1981年 東北学院大学工学部卒業
日本国有鉄道入社
- 1987年 東日本旅客鉄道株式会社入社
- 2016年～2019年
同社 執行役員 秋田支社長として
秋田市に在住
- 2019年6月～ 現職